

総論

満点	70点	目標得点	56点	試験時間	60分	偏差値	A:73 B:75
大問数	1	小問数	2				
	【解答形式】	選択式	0/2問	記述式	1/2問	論述式	1/2問
	【問題難易度】	C	0/2問	B	1/2問	A	1/2問
※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：経済学部はA方式もB方式も小論文が必須であるが、英語の客観問題で一定の点数（おそらく5割）をとらないと、小論文は読んでもらえないことに注意が必要である。
- 2：配点は70点と低い、英語と地歴（or 数学）でボーダーライン上にある人ほど、小論文の出来が合否を左右する。
- 3：ここ数年は総字数600字程度に落ち着いているが、これを60分で書かねばならないということが最大の難関である。下書きをしているヒマはなく、実際下書き用紙もない。

こんな力が求められる！

- 1：社会的現象や問題を正確に把握できる理解力を前提として、その特徴や長短などについて客観的に評価・論評できる考察力が求められる。
- 2：過去問演習が最良の対策であり、お茶ゼミ「論文」の授業では経済学部の過去問をほぼすべて演習する。

参考図書

出典となった、猪木武徳『自由と秩序—競争社会の二つの顔—』（中央公論社、2001年）は、小論文入試では比較的よく使われる。

大問別分析

【設問A】

予想配点	25 / 70点	時間配分の目安	20 / 60分
字数	200字以内		
出題形式	課題文型		
テーマ	短期的能力評価システムの弊害と長期的能力評価システムの再評価		
出典	猪木武徳『自由と秩序—競争社会の二つの顔—』 中央公論社		
設問形式	要約説明		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す A		

●解答のポイント&対策等

【課題文の主旨】

- 1：日本の長期雇用や「年功制」等の長期的能力評価システムはゆっくりとした競争と選抜ができる。
- 2：「能力給」や年俸制などの短期的能力評価システムは、成員がリスク回避や自己利益中心の行動に走る傾向があるため、組織全体の長期的利益も損なわれる。

# Benesse® お茶の水ゼミナール

3：自己責任のもとで、リスクをとってはじめて利潤があがるという自由競争の大原則に反して、リスクを回避するような短期評価のシステムは経済活動を萎縮させてしまう。

## 【解答の指針】

1：長期的能力評価システムの長所は問題文中に明示されているが、短所はそれほど明確に示されていないので、文章の記述に即して自分で補って行く必要がある。

2：以下のようなポイントが解答に入っていれば合格点となろう。

長期的能力評価システムの長所

- ①ゆっくりと時間をかけて評価と競争ができる
- ②それゆえ個人も組織もリスクをとりながら成果を上げることができる。

長期的能力評価システムの短所

- ①短期的に成果が上げられる職種や若くて有能な人材の能力を十分に評価できない。
- ②そのためそうした人々の不満や意欲の喪失を招く場合がある。
- ③またこうした人材が外部に流出して、組織の生産性の維持が困難になる場合もある。

## 【設問B】

予想配点	45 / 70 点	時間配分の目安	40 / 60 分
字数	400 字以内		
出題形式	課題文型		
テーマ	【設問A】に同じ		
出典	【設問A】に同じ		
設問形式	意見論述		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す B		

## ●解答のポイント&対策等

### 【解答の指針】

1：「小論文の基本＝賛否の明示」を忘れない⇒「中学校教諭」に「年俸制」を導入することに賛成か反対か、自分の立場を明示し、その理由を分かりやすく論じる必要がある。

2：以下のような理由が提示できれば、合格点となろう。

「年俸制導入」の肯定的側面の例

- ①意欲がある教員が授業の創意工夫を凝らしたり、熱心に生徒指導に取り組むようになる。
- ②特に若い教員の意欲を促す面がある。
- ③結果的に、サラリーマン的教員が淘汰されて教育現場の活性化が期待できる。

「年俸制導入」の否定的側面の例

- ①数字として結果が現れやすい受験指導に授業内容が偏る恐れがある。
- ②短期間では成果が見えにくい、生徒の人間形成に関する指導が軽視される恐れがある。
- ③マイナス査定を回避して事なかれ主義に陥り、生徒に迎合する教員も出てくる可能性がある。
- ④結果的に、生徒と教員の信頼関係が希薄になり教育現場の硬直化がもたらされる危険がある。